

眼科用薬

製品群No. 62~65,67

資料4-40

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果	
								使用方法(誤使用のおそれ)	使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ				長期使用による健康被害のおそれ
評価の視点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ		
ビタミン成分	フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム(FAD)	ビタミンB2製剤・フラビン点眼液	FADは角膜の酸素消費能を増加させ組織呼吸を亢進したが、リボフラビン及びFMN(Flavin mononucleotide・リン酸リボフラビン)では、このような作用が認められなかった。 ビタミンB2欠乏ウサギの角膜中のビタミンB2量は、FADの点眼により増加した。 また、ビタミンB2欠乏ウサギに出現したびまん性表層角膜炎の症状は、FADの点眼により改善が認められた。										通常、1回1~2滴を1日3~6回点眼する。なお、症状により適宜増減する。	下記疾患のうちビタミンB2の欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合 角膜炎、眼瞼炎
アミノ酸類成分	レ-アスバラギン酸カリウム	アスバラギン酸カリウム錠(点眼剤ないため経口剤を採用)	カリウムは細胞内の主要な電解質で、細胞膜電位の形成、酸-塩基平衡の調節、浸透圧の維持等に関与し、神経の興奮や各組織の細胞内代謝に重要な役割をもつ。 レ-アスバラギン酸カリウムは組織移行性及び体内利用性のよいカリウム塩であることが認められている。	カリウム保持性利尿剤・アンジオテンシン変換酵素阻害剤・アンジオテンシンII受容体拮抗剤(高カリウム血症)	心臓伝導障害(大量投与)	0.1~5%未満(胃腸障害、食欲不振、心窩部重圧感、耳鳴)	重篤な腎機能障害(高カリウム血症)、 副腎機能障害(高カリウム血症)、 高カリウム血症	腎機能低下あるいは腎機能障害、急性脱水症、広範囲の組織損傷(熱傷、外傷等)、高カリウム血症があらわれやすい疾患(低レニン性低アルドステロン症等)、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、授乳中の婦人、低出生体重児、新生児、乳児、高齢者				大量投与で心臓伝導障害 長期投与で高カリウム血症	レ-アスバラギン酸カリウムとして、通常成人1日0.9~2.7g(錠3~9錠、散1.8~5.4g)を3回に分経口投与する。なお、症状により1回3g(錠10錠、散6g)まで増量できる。 高齢者では減量投与	下記疾患又は状態におけるカリウム補給 降圧利尿剤、 副腎皮質ホルモン、 強心配糖体、 インスリン、 ある種の抗生物質などの運用時 低カリウム血症 症型周期性四肢麻痺 心疾患時の低カリウム状態 重症嘔吐、下痢、カリウム摂取不足及び手術後

眼科用薬

製品群No. 62～65,67

資料4-40

リスクの程度 の評価	A 薬理作用		B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	機能効果	
	評価の視点	薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)			スイッチ化等に伴う使用環境の変化			
			併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ				
	レ-アスバラキ ン酸マグネシ ウム・カリウ ム	アスバラキ ン酸(点 眼剤ないた め経口剤を 採用)		カリウム並び にマグネシウ ムは細胞内 に多量に存 在する陽イ オンで、細胞 の生理的機能 の維持に重 要な働きを示 す。 レ-アスバラキ ン酸カリウム とレ-アスバラ キン酸マグネ シウムとの等 量混合物は、 KCl、MgCl ₂ などの無機塩 に比べ組織移 行性が高く、 電解質平衡 異常時のカリ ウム、マグネ シウム補給に 優れた効果を 示す。		カリウム保持性利尿剤・アン ジオテンシン変換酵素阻害 剤・アンジオテンシンII受容体 拮抗剤(高カリウム血症)、 活性型ビタミンD製剤(高マ グネシウム血症)		心臓伝導障 害(大量投 与)		頻度不明(胃 腸障害、胸や け、下痢、嘔 吐、腹部膨満 感、けん急 感、熱感)									原則として、レ-アスバラキ ン酸カリウムとして1日225 ～50mg(3～10歳)を2～3 回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適 宜増減する。 高齢者では減量投与	下記疾患又は 状態における カリウム補給 (マグネシウム 欠乏を合併し ている場合)降 圧利尿剤、副 腎皮質ホルモ ン、強心配糖 体、インスリ ン、ある種の 抗生物質など の連用時、低 カリウム血症 周期性四肢麻 痺、心疾患時 の低カリウム 状態、肝疾患 時の低カリウ ム状態、重症 嘔吐、下痢、 カリウム摂取 不足及び手術 後
	アミノ酸エチ ルスルホン酸 (タウリン)	タウリン散 「大正」		胆汁酸排泄 促進作用を 有する。 -実験的肝障 害に及ぼす 影響を有し、 AI-P、ア-グ ロブリン、 BSP、血清コ レステロール /血清コレス テロールエス テル比を改善 させた。また、 肝細胞の再 生を促進して 組織像を改 善させた。さ らに慢性障害 群においては 間質の結合 組織増殖を 抑制した。胆 汁分泌などの 肝細胞機能 維持に働いた。 -心筋代謝改 善作用、心筋 保護作用 -実験的慢性 心不全による 死亡率低下					0.5%未満 (嘔気、下 痢、腹部不 快感、便秘、 食欲不振)	0.5%未満 (過敏症)									アミノエチル スルホン酸と して、成人1回1gを1日3 回食後に経口投与する。 なお、うつ血性心不全に用 いる場合、本剤は強心利 尿剤で十分な効果が認め られないときに、それと併 用すること。高齢者で減 量。	高ビリルビン血 症(閉塞性黄 疸を除く)に おける肝機能 の改善 うつ血性心不 全

眼科用薬

製品群No. 62～65,67

資料4-40

リスクの程度の評価		A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
評価の視点		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)				
			併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの					使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ		
	コンドロイチン硫酸ナトリウム	コンドロロン点眼液	塩酸又は水酸化ナトリウムで腐蝕した家兎角膜の膨化、浮腫並びに混濁が抑制され、角膜の透明性を保持する作用が認められている。コンドロイチン硫酸ナトリウムの生理的粘性により角膜の乾燥を防止する作用が認められている。				0.1～0.5%未満(眼のかゆみ、充血)、0.25% (眼瞼結膜炎悪化)						眼科用のみ使用			通常1日2～4回、1回1～2滴宛点眼する。	角膜表層の保護
無機塩類成分	塩化ナトリウム、塩化カリウム、乾燥炭酸ナトリウム、リン酸水素ナトリウム、ホウ酸	人工涙液マティア					頻度不明(過敏症)						点眼用のみで使用。ソフトコンタクトレンズ装着時には使用しないこと			通常、1回1～2滴を1日5～6回点眼する。症状により適宜増減。	次における涙液の補充：涙液減少症、乾性角結膜炎、コンタクトレンズ装着時
	塩化カリウム	経口または注射があるが不採用															
	塩化カルシウム	経口または注射があるが不採用															
	塩化ナトリウム	経口または注射があるが不採用															
	硫酸マグネシウム	経口または注射があるが不採用															
	リン酸水素ナトリウム	経口または注射があるが不採用															
	リン酸二水素カリウム	なし															